

## はじめに

国立情報学研究所では、大学等の研究者の研究活動に関するデータベースである「研究者ディレクトリ」を作成するため、「学術研究活動に関する調査」を実施してきた。この調査は、昭和 36 年以降文部省（現文部科学省）により実施されていたものであるが、平成 4 年度から学術情報センターが引き継ぎ、その後同センターの改組に伴い、平成 12 年度から平成 13 年度まで国立情報学研究所において引き続き実施してきた。

平成 14 年度からは独立行政法人科学技術振興機構が実施する、「研究開発支援総合ディレクトリ」(ReaD)調査の一環として引き継がれた。調査結果は「研究開発支援総合ディレクトリ」(ReaD)で提供され、国内の大学等の研究者についての詳細な情報を知ることができる。

平成 16 年度の同調査は、1,407 の学術研究機関を対象として実施し、1,344 の学術研究機関、約 16.6 万人の研究者から回答が得られた。

本報告書は、我が国の学術研究活動を定量的に把握するため、平成 16 年度の同調査結果を集計しとりまとめたものである。こうした報告書としては、すでに、

- ・昭和 52 年度調査（昭和 55 年文部省公表）
- ・平成 5 年度調査（平成 8 年公表：「我が国における学術研究活動の状況－平成 5 年度学術研究活動に関する調査結果」情報管理, 39(7), (1996)）
- ・平成 7 年度調査（平成 9 年公表：「我が国における学術研究活動の状況－平成 7 年度学術研究活動に関する調査結果」情報管理, 40(7), (1997)）
- ・平成 8 年度調査（平成 10 年公表：「我が国における学術研究活動の状況－平成 8 年度学術研究活動に関する調査結果」学術情報センター刊）
- ・平成 9 年度調査（平成 11 年公表：「我が国における学術研究活動の状況－平成 9 年度学術研究活動に関する調査結果」学術情報センター刊）
- ・平成 10 年度調査（平成 12 年公表：「我が国における学術研究活動の状況－平成 10 年度学術研究活動に関する調査結果」学術情報センター刊）
- ・平成 11 年度調査（平成 13 年公表：「我が国における学術研究活動の状況－平成 11 年度学術研究活動に関する調査結果」国立情報学研究所刊）
- ・平成 12 年度調査（平成 14 年公表：「我が国における学術研究活動の状況－平成 12 年度学術研究活動に関する調査結果」国立情報学研究所刊）
- ・平成 13 年度調査（平成 15 年公表：「我が国における学術研究活動の状況－平成 13 年度学術研究活動に関する調査結果」国立情報学研究所刊）
- ・平成 14 年度調査（平成 16 年公表：「我が国における学術研究活動の状況－平成 14 年度学術研究活動に関する調査結果」国立情報学研究所刊）
- ・平成 15 年度調査（平成 17 年公表：「我が国における学術研究活動の状況－平成 15 年度学術研究活動に関する調査結果」国立情報学研究所刊）

があり、本報告書は12回目のもものとなる。本報告書においても、前回と同様、当初文部省が作成した報告書と対照できるような内容、構成としている。

本報告書が、我が国の学術研究活動全体の動向把握に役立てば幸甚である。

## 1. 調査結果の概要

本調査の対象となった研究者は、平成16年12月現在、次の諸機関に所属する、本務としての教育職員及び研究職員で大学の助手相当職以上の者並びに大学院博士課程（後期）に在籍している学生、日本学術振興会特別研究員、日本学術振興会研究員（リサーチ・アシリエイト）及び大学等の非常勤研究員全員である。

- (1) 国立・公立・私立の大学
- (2) 国立・公立・私立の短期大学
- (3) 国立・公立・私立の高等専門学校
- (4) 大学共同利用機関，大学入試センター，学位授与機構及び国立学校財務センター（以下，大学共同利用機関等という。）
- (5) 文部科学省及び文化庁並びにその施設等機関（以下，文部科学省施設等機関等という。）
- (6) 文部科学省所管民間学術研究機関（以下，民間学術研究機関という。）

その総数は1,407機関で、このうち、この調査に対し回答があったのは、1,344機関（回答率95.5%）から、165,927人であった（表1）。

以下に、回答の得られた者（以下，これらを「研究者」という。）についての、学術研究活動の状況について述べることとする。

表1 調査対象及び回答数

機関種別	調査対象数	回答数		回答率
	機関	機関	個人	機関
国・公・私立大学	687	702	149,299	102.2%
国・公・私立短期大学	483	459	9,418	95.0%
国・公・私立高等専門学校	63	63	4,063	100.0%
大学共同利用機関等	4	9	1,511	225.0%
文部科学省施設等機関等	27	19	798	70.4%
民間学術研究機関	143	92	838	64.3%
合計	1,407	1,344	165,927	95.5%

## 2. 学術研究者の状況

### 2.1 専門分野別研究者数

専門分野別研究者数は、表 2 のとおりである。本調査の専門分野の区分は、「科学研究費補助金 系・部・分科・細目表」に基づく研究分野コードを採用している。専門分野別研究者数の構成比率（図 1）を全体で見ると、文学が 12.2%、医学が 11.6%と多く、この両分野で全体の 23.8%を占めている。次いで、工学（7.9%）、複合領域（7.8%）、理学（5.1%）、経済学（3.2%）、農学（2.5%）、法学（1.7%）、広領域（1.4%）の順になっている。また、人文・社会科学系研究者（文学、法学、経済学の研究者）28,304 人と自然科学系研究者（理学、工学、農学、医学の研究者）45,050 人との比率は、39 対 61 である。

研究者をその所属する機関の設置者別に見ると、国立 45.9%(76,096 人)、公立 6.6%(10,930 人)、私立 47.6% (78,901 人) である。

各専門分野ごとに設置者別の研究者構成を見ると、図 2 のとおり、理学（66.6%）、農学（62.0%）、工学（61.7%）など、主として自然科学系においては、国立の占める比率が高く、経済学（72.8%）、法学（68.0%）、文学（66.3%）、広領域（61.9%）など、主として人文・社会科学系においては私立が多数を占めている。

表 2 機関種別・専門分野別研究者数

機関種別		文学	法学	経済学	理学	工学	農学	医学	複合領域	広領域	無回答	計	機関数	
大 学	国立	助手以上	4,457	676	953	4,375	5,844	2,140	6,914	4,804	645	17,413	48,221	
		その他	658	74	105	709	958	409	1,053	658	46	17,071	21,741	
		計	5,115	750	1,058	5,084	6,802	2,549	7,967	5,462	691	34,484	69,962	88
	公立	助手以上	905	125	310	419	524	238	1,594	610	98	2,945	7,768	
		その他	39	4	5	15	14	19	93	20	1	1,662	1,872	
		計	944	129	315	434	538	257	1,687	630	99	4,607	9,640	76
	私立	助手以上	10,696	1,772	3,439	2,121	3,907	943	8,258	4,618	1,037	19,211	56,002	
		その他	419	91	119	67	116	45	598	153	89	11,998	13,695	
		計	11,115	1,863	3,558	2,188	4,023	988	8,856	4,771	1,126	31,209	69,697	523
	計	助手以上	16,058	2,573	4,702	6,915	10,275	3,321	16,766	10,032	1,780	39,569	111,991	
		その他	1,116	169	229	791	1,088	473	1,744	831	136	30,731	37,308	
		計	17,174	2,742	4,931	7,706	11,363	3,794	18,510	10,863	1,916	70,300	149,299	687
短期大学	国立	助手以上	20	1	4	0	11	1	17	27	12	33	126	
		その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	38	38	
		計	20	1	4	0	11	1	17	27	12	71	164	5
	公立	助手以上	171	10	37	13	23	72	159	101	14	290	890	
		その他	1	0	0	1	1	0	1	2	0	123	129	
		計	172	10	37	14	24	72	160	103	14	413	1,019	44
	私立	助手以上	2,160	73	271	136	247	217	439	1,192	245	2,737	7,717	
		その他	18	0	1	1	1	1	5	8	2	481	518	
		計	2,178	73	272	137	248	218	444	1,200	247	3,218	8,235	434
	計	助手以上	2,351	84	312	149	281	290	615	1,320	271	3,060	8,733	
		その他	19	0	1	2	2	1	6	10	2	642	685	
		計	2,370	84	313	151	283	291	621	1,330	273	3,702	9,418	483
高等専門学校	国立	助手以上	272	18	20	287	1,134	27	11	354	18	1,400	3,541	
		その他	5	0	0	1	20	0	0	1	1	92	120	
		計	277	18	20	288	1,154	27	11	355	19	1,492	3,661	55
	公立	助手以上	26	1	1	34	101	1	1	22	2	79	268	
		その他	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	3	
		計	26	1	1	34	102	1	1	22	2	81	271	5
	私立	助手以上	8	0	1	8	26	1	0	16	6	62	128	
		その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	
		計	8	0	1	8	26	1	0	16	6	65	131	3
	計	助手以上	306	19	22	329	1,261	29	12	392	26	1,541	3,937	
		その他	5	0	0	1	21	0	0	1	1	97	126	
		計	311	19	22	330	1,282	29	12	393	27	1,638	4,063	63
大学共同利用機関等	助手以上	81	4	2	218	51	7	14	186	10	389	962		
	その他	6	1	0	19	3	3	0	12	2	503	549		
	計	87	5	2	237	54	10	14	198	12	892	1,511	4	
文部科学省施設等機関等	助手以上	146	1	1	67	41	4	3	42	6	307	618		
	その他	4	0	0	2	3	0	0	3	0	168	180		
	計	150	1	1	69	44	4	3	45	6	475	798	27	
民間学術研究機関	助手以上	68	6	16	34	44	48	107	69	9	282	683		
	その他	2	0	0	3	4	2	1	5	0	138	155		
	計	70	6	16	37	48	50	108	74	9	420	838	143	
合 計	国立	助手以上	4,976	700	980	4,947	7,081	2,179	6,959	5,413	691	19,542	53,468	
		その他	673	75	105	731	984	412	1,053	674	49	17,872	22,628	
		計	5,649	775	1,085	5,678	8,065	2,591	8,012	6,087	740	37,414	76,096	179
	公立	助手以上	1,102	136	348	466	648	311	1,754	733	114	3,314	8,926	
		その他	40	4	5	16	16	19	94	22	1	1,787	2,004	
		計	1,142	140	353	482	664	330	1,848	755	115	5,101	10,930	125
	私立	助手以上	12,932	1,851	3,727	2,299	4,224	1,209	8,804	5,895	1,297	22,292	64,530	
		その他	439	91	120	71	121	48	604	166	91	12,620	14,371	
		計	13,371	1,942	3,847	2,370	4,345	1,257	9,408	6,061	1,388	34,912	78,901	1,103
	計	助手以上	19,010	2,687	5,055	7,712	11,953	3,699	17,517	12,041	2,102	45,148	126,924	
		その他	1,152	170	230	818	1,121	479	1,751	862	141	32,279	39,003	
		計	20,162	2,857	5,285	8,530	13,074	4,178	19,268	12,903	2,243	77,427	165,927	1,407

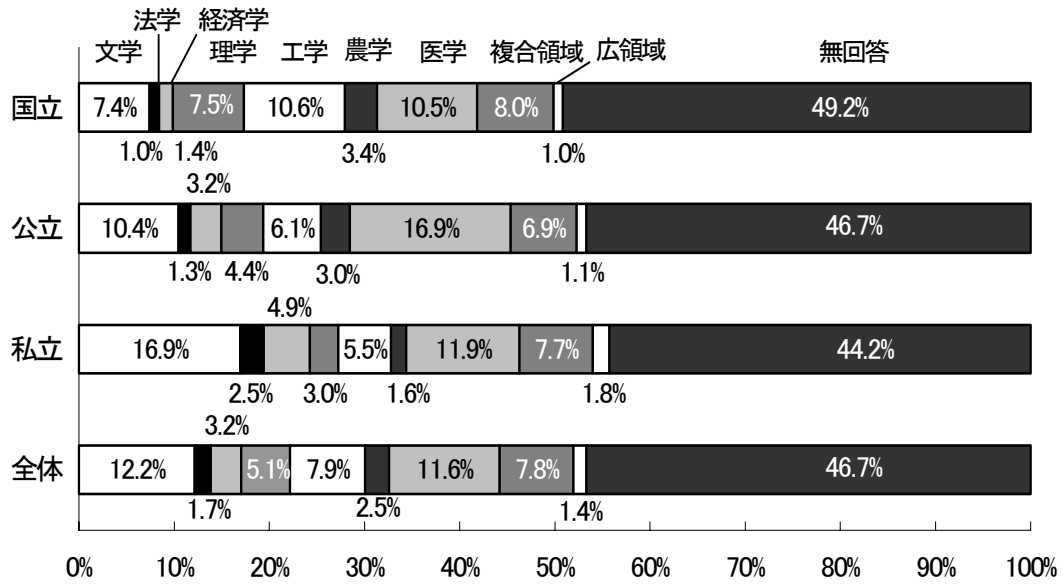


図 1 設置者別・専門分野別・研究者の構成

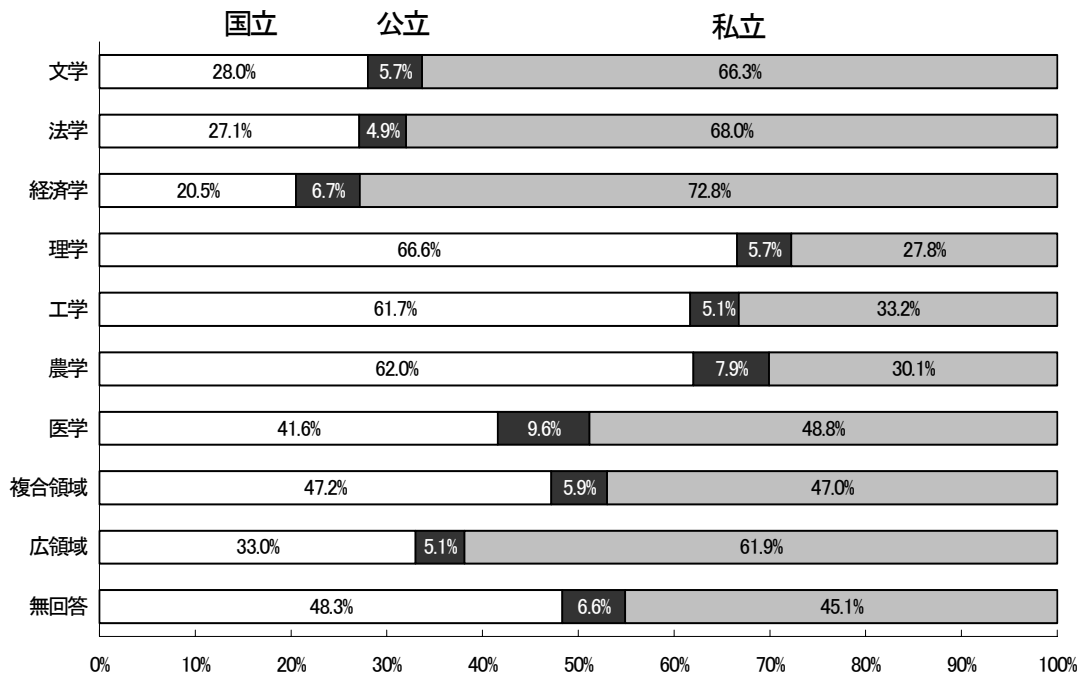


図 2 専門分野別・設置者別・研究者の構成

## 2.2 機関種別研究者数

機関種別に研究者の構成を見ると、大学の研究者が全体の90.0%を占める149,299人であり、短期大学5.7% (9,418人)、高等専門学校2.4% (4,063人)、大学共同利用機関等0.9% (1,511人)、民間学術研究機関0.5% (838人)、文部科学省施設等機関等0.5% (798人)となっている(表2)。

大学、短期大学、高等専門学校について設置者別の研究者数は、表2のとおりであるが、その構成比率は、大学においては、国立46.9%、公立6.5%、私立46.7%、短期大学では、国立1.7%、公立10.8%、私立87.4%、また、高等専門学校では、国立90.1%、公立6.7%、私立3.2%となっている。

大学、短期大学における研究者の職名別構成は、表3のとおりであり、私立においては、国・公立と比較して教授、講師の占める割合が高く、国・公立においては、私立と比較して、助手の占める割合が高いのが目立っている。また、国立においては、大学院博士課程(後期)(以下、大学院学生という。)の占める割合が目立って高い。

表3 大学及び短期大学における研究者の職名別構成

職名		全体(%)	国立(%)	公立(%)	私立(%)
大 学	学長・副学長	0.3%	0.2%	0.3%	0.4%
	教授	31.3%	25.2%	27.5%	37.9%
	助教授	19.6%	20.6%	20.9%	18.3%
	講師	9.1%	5.4%	12.1%	12.5%
	助手	13.5%	16.4%	18.3%	9.8%
	その他	1.3%	1.1%	1.4%	1.5%
	大学院学生(博士過程)	9.1%	13.8%	5.2%	4.9%
	非常勤研究員	0.6%	1.2%	0.2%	0.1%
	不明	15.2%	16.0%	14.0%	14.6%
	合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
短 期 大 学	学長・副学長	1.4%	1.8%	1.3%	1.4%
	教授	37.4%	32.3%	30.0%	38.4%
	助教授	27.0%	23.2%	28.2%	26.9%
	講師	20.5%	5.5%	16.5%	21.3%
	助手	5.6%	14.0%	11.3%	4.7%
	その他	0.9%	0.0%	0.1%	1.0%
	大学院学生(博士過程)	0.1%	0.0%	0.2%	0.1%
	非常勤研究員	7.2%	23.2%	12.5%	6.2%
	不明	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	

## 2.3 年齢

全研究者の平均年齢は、47.3 歳である。各専門分野別に研究者の平均年齢を見ると、広領域が 51.8 歳で最も高く、次いで、経済学 (51.7 歳)、文学 (51.5 歳)、法学 (50.3 歳) であり、一般的に人文・社会科学系がやや高く、以下、工学 (48.8 歳)、農学 (48.6 歳)、複合領域 (48.6 歳)、理学 (48.3 歳) となっており、医学は 46.6 歳と最も若い。以上を設置者別に見ると、いずれも私立の研究者の平均年齢は、国・公立に比べ高くなっている (図 3)。また、男女別の平均年齢は、男性が 47.95 歳、女性が 44.55 歳である (図 4)。

機関種別の研究者の平均年齢では、大学共同利用機関等が最も若く 44.8 歳である。次いで、文部科学省施設等機関等、高等専門学校、大学、民間学術研究機関の順となっているが、短期大学は 51.5 歳と最も高くなっている (表 4)。

職名別に平均年齢を見ると、まず、助手以上については、教授の平均年齢は 57.4 歳であるが、大学共同利用機関等の教授は平均 54.4 歳と最も若く、民間学術研究機関では教授の平均年齢は 68.5 歳と最も高い。全体における助教授の平均年齢は 46.5 歳、講師 42.7 歳、助手 38.4 歳である。大学の教授、助教授、講師においては、平均年齢が私立、公立、国立の順になっているが、助手においては、逆に私立は最も若くなっている。ちなみに、学長の平均年齢は、国立 63.8 歳、公立 66.2 歳、私立 67.3 歳となっている。また、日本学術振興会特別研究員、日本学術振興会研究員 (リサーチ・アソシエイト) 及び大学等の非常勤研究員 (以下、非常勤研究員という。) の平均年齢は 32.5 歳である。(表 4)。

研究者の年齢別構成を見ると、全体では 41～50 歳が 27.0% と最も多く、次いで、51～60 歳 26.5%、以下、31～40 歳が 23.3%、61～70 歳 14.0%、30 歳以下 8.0%、71 歳以上 1.1% となっている。(図 5)

これを各専門分野別に見ると、40 歳以下の若手研究者の占める割合が高くなっている専門分野は、工学 (29.3%)、医学 (28.8%)、農学 (28.8%) となっている。これに対して、40 歳以下の研究者の占める割合が低い専門分野としては、文学 (16.9%)、広領域 (18.0%)、経済学 (19.5%) があげられる (図 5)。これを人文・社会科学系と自然科学系別に見ると、人文・社会科学系では、自然科学系に比べ、若手研究者の占める割合が低い。



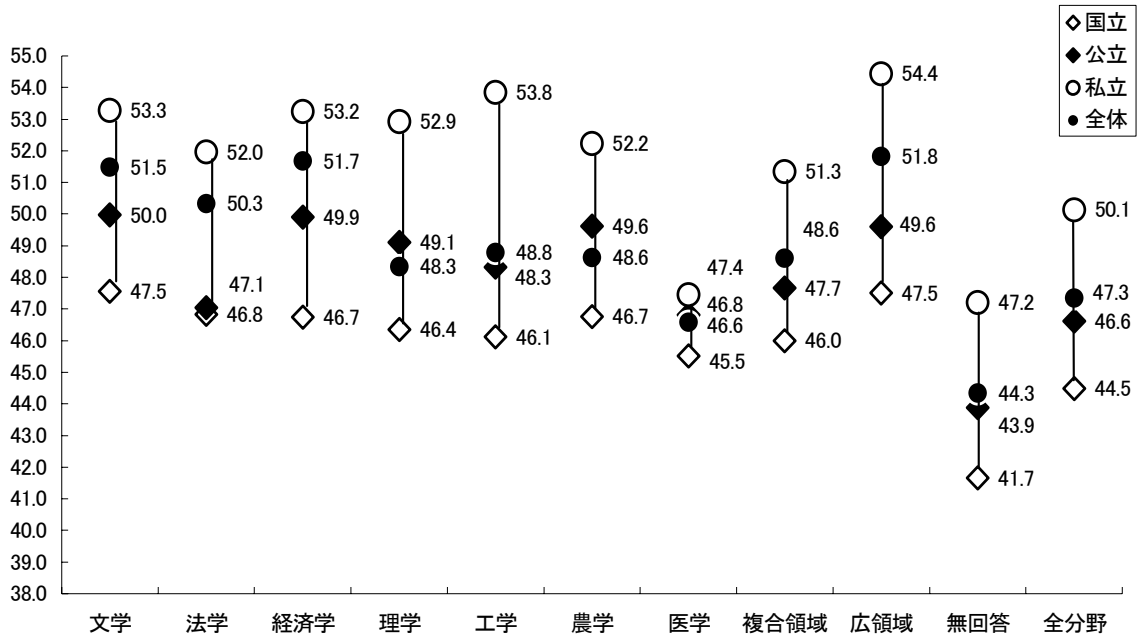


図 3 専門分野別・研究者の平均年齢

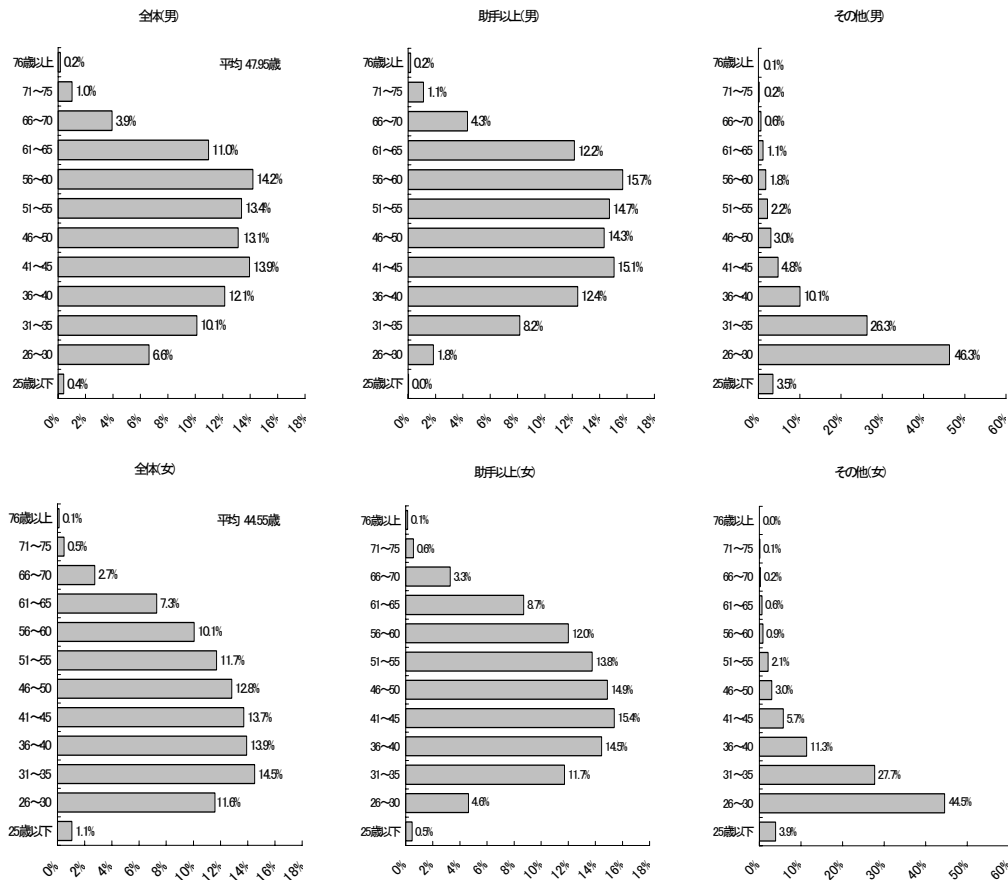


図 4 男女別・研究者の年齢構成

表 4 機関種別・職名別・研究者の平均年齢

機関種別	大学関係の職名							全体
	教授	助教授	講師	助手	学長(備考)	非常勤研究員		
大学	国立	55.6	45.1	42.5	38.9	63.9	31.8	44.3
	公立	56.3	46.3	42.6	38.3	65.0	38.1	46.4
	私立	58.7	47.8	43.0	38.1	67.3	37.2	49.9
	全体	57.4	46.4	42.8	38.6	66.3	32.4	47.1
短期大学	国立	56.9	49.3	42.1	34.0	58.5		49.4
	公立	57.1	47.0	41.8	37.9	68.5		48.6
	私立	59.1	50.0	43.4	36.1	67.2		51.9
	全体	58.9	49.6	43.3	36.4	67.2		51.5
高等専門学校	国立	55.7	43.7	36.1	35.0	64.3	36.0	46.8
	公立	56.0	40.7	34.4	32.0			47.4
	私立	57.4	49.8	39.9	28.6	64.0		49.0
	全体	55.8	43.7	36.2	34.9	64.3	36.0	46.9
大学共同利用機関等		54.4	45.6	34.0	38.1		33.2	44.8
文部科学省施設等機関等		56.1	43.4		36.3		41.0	46.1
民間学術研究機関		68.5	51.0	56.7	40.3		36.5	48.9
全体	国立	55.6	45.0	41.9	38.7	63.8	31.9	44.5
	公立	56.3	46.2	42.3	38.3	66.2	38.1	46.6
	私立	58.7	48.2	43.1	37.9	67.3	37.1	50.1
	全体	57.4	46.5	42.7	38.4	66.5	32.5	47.3

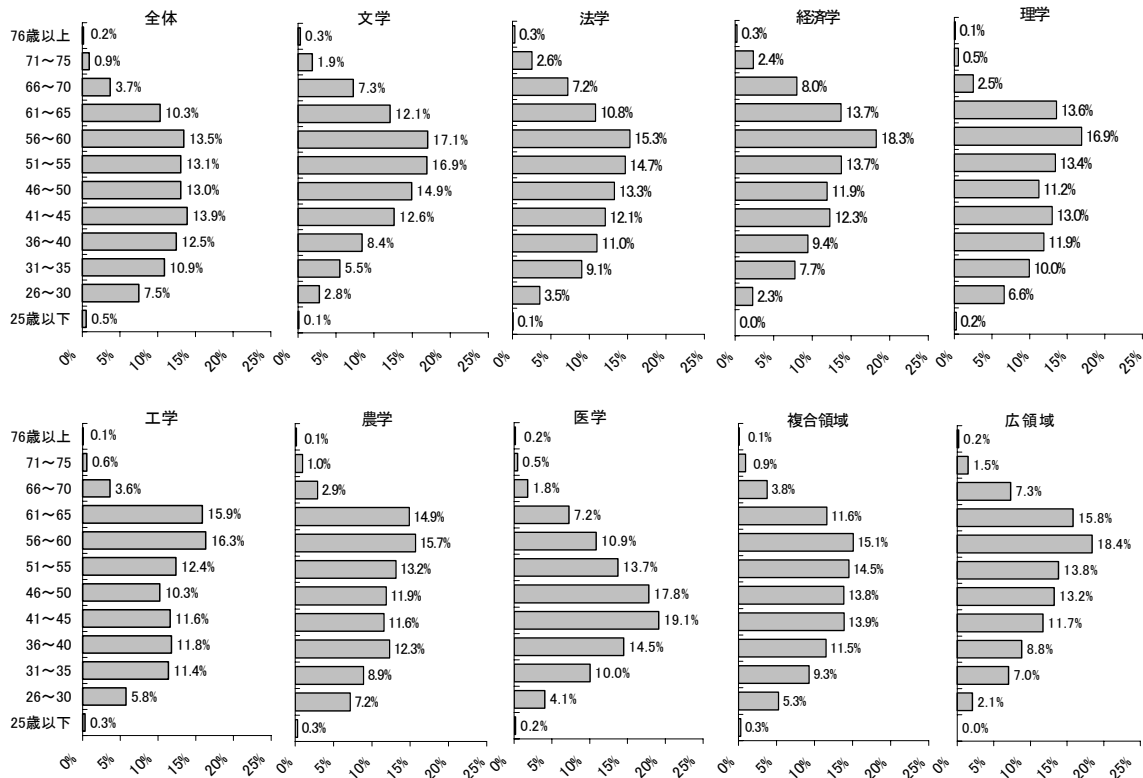


図 5 専門分野別・研究者の年齢構成

## 2.4 性別

性別について回答のあった全研究者の男女構成は、男性 82.7% (116,284 人) に対して女性 17.3% (24,252) である。

専門分野別に男女構成を見ると、女性比率が高いのは、文学 (25.9%)、広領域 (22.0%)、医学 (20.3%)、複合領域 (19.9%) の 4 分野であり、いずれも概ね 20%以上となっている。それに対して、工学 (3.4%)、理学 (6.3%)、経済学 (8.0%)、農学 (10.2%)、法学 (12.1%) の各分野では、女性比率が低く、特に工学における女性比率の低さが際立っている (図 6)。

機関種別では、短期大学において女性比率が際立って高く、設置者全体の 43.8%となっている。逆に、高等専門学校においては、女性比率は極めて低く、設置者全体の 4.8%に過ぎない。また、設置者別では、国立において女性比率が低く、公・私立の 6 割程度の比率である (図 7)。

職名別では、いずれの設置者においても、講師、助手、大学院学生、非常勤研究員の女性比率が高くなっている。(図 8)。

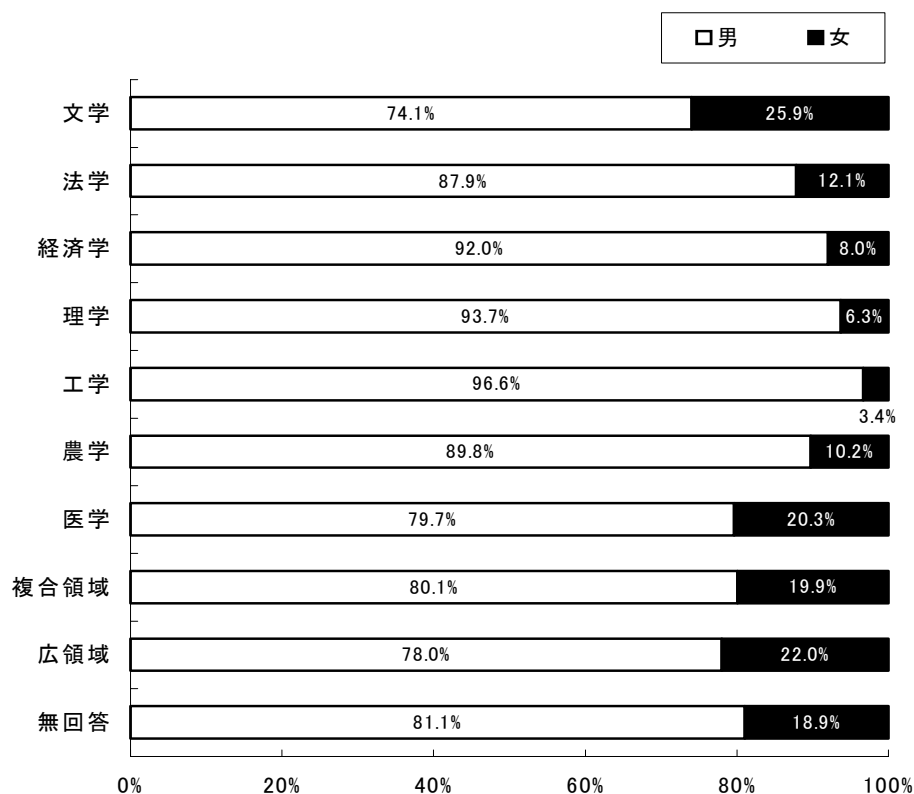


図 6 専門分野別・研究者の男女構成

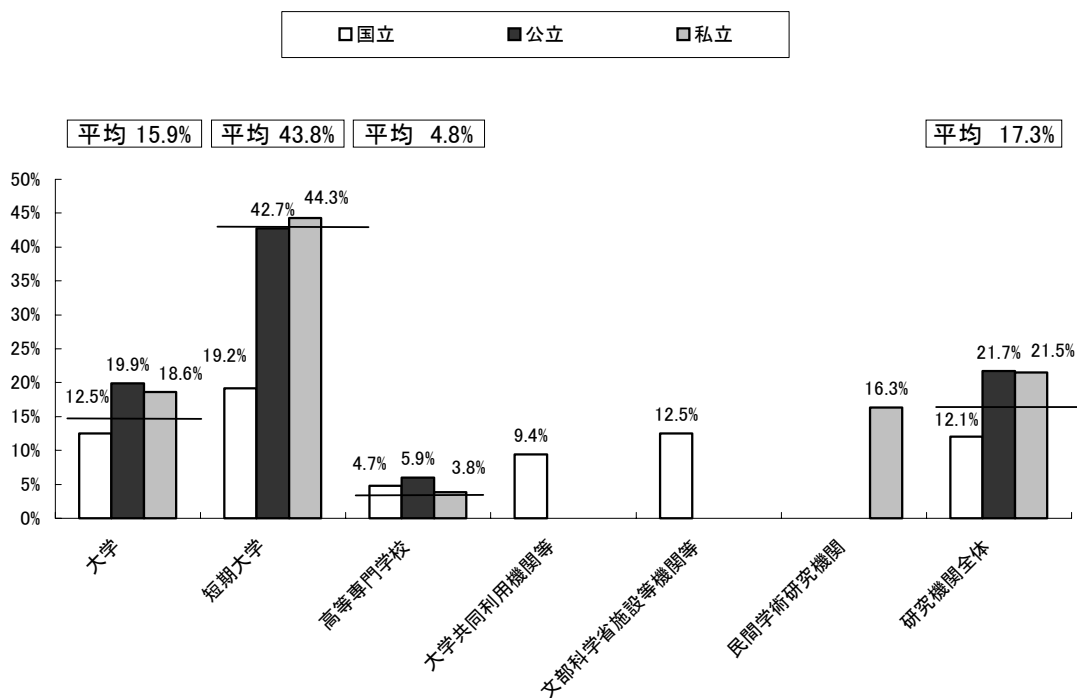


図 7 機関種別・女性研究者の比率

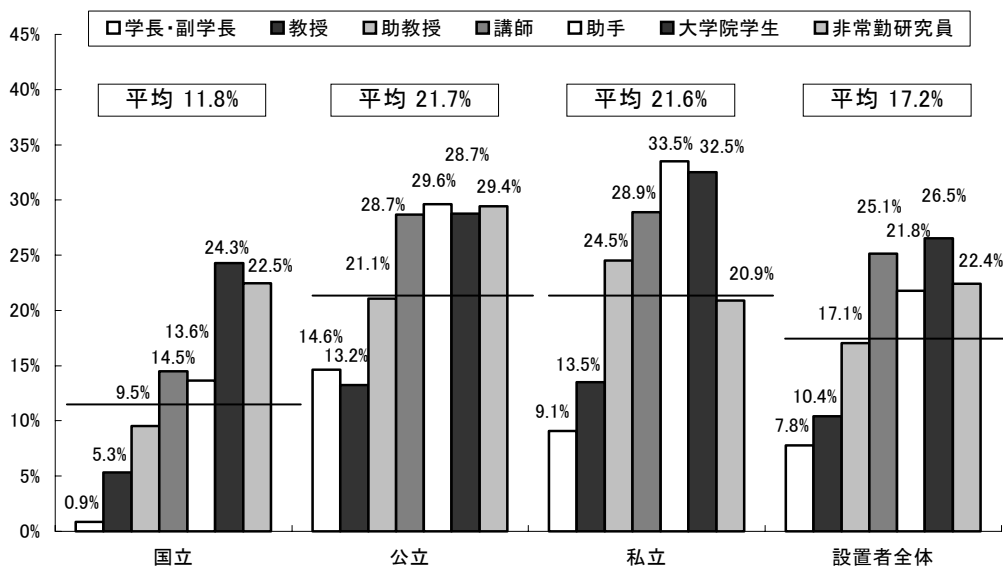


図 8 職名別・女性研究者の比率

## 2.5 外国氏名

全研究者のうち、全体の2.3%に当たる3,757人が外国氏名を名乗っている。

各専門分野における外国氏名保有者の比率を見ると、文学(3.9%)、経済学(3.0%)、広領域(2.6%)の分野で高く、工学(2.5%)、農学(2.3%)、法学(2.1%)がそれに続いている(図9)。なお、文学における外国氏名保有者数は788人であり、これは外国氏名保有者全体の21.0%に当たる。

機関種別に外国氏名保有者の比率を見ると、大学が最も高く、短期大学、民間学術研究機関の順になっている(図10)。

職名別に見ると、全機関種において、大学院学生、非常勤研究員の外国氏名を持つ者の比率が際立って高く、設置者全体の13.2%となっている。学長・副学長を除き講師以上において、外国氏名保有者の比率は、高い方から、私立、公立、国立の順となっている(図11)。

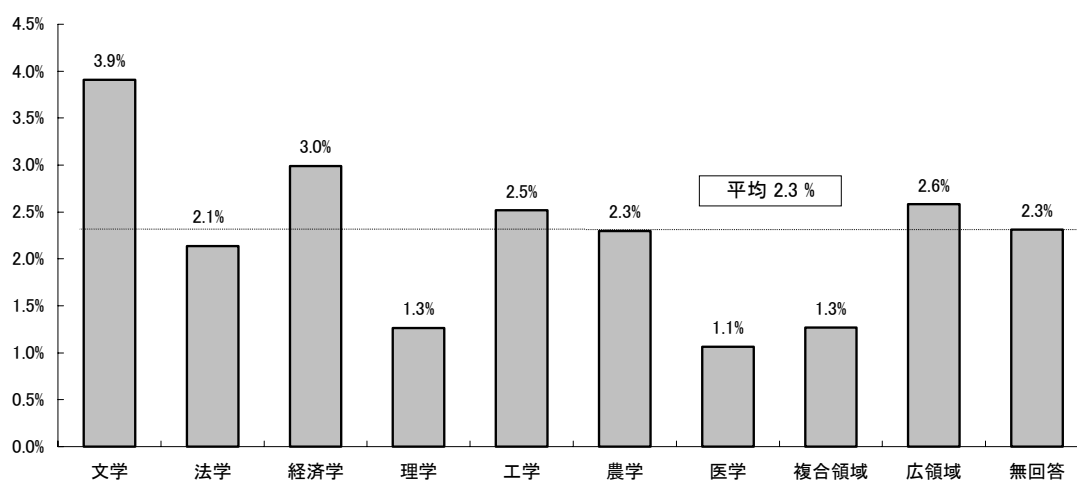


図9 専門分野別・外国氏名保有者の比率

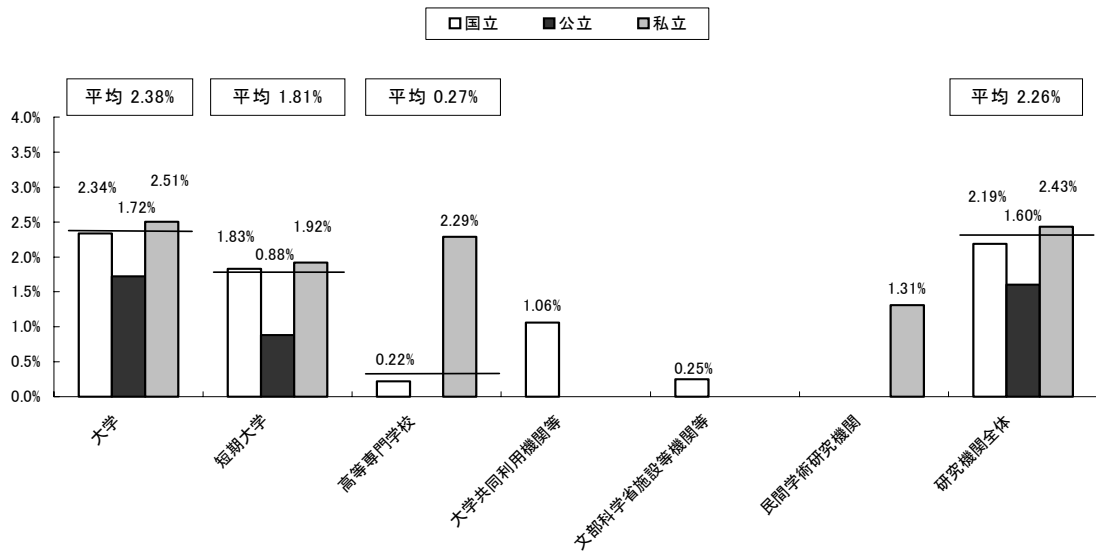


図 10 機関種別・外国氏名保有者の比率

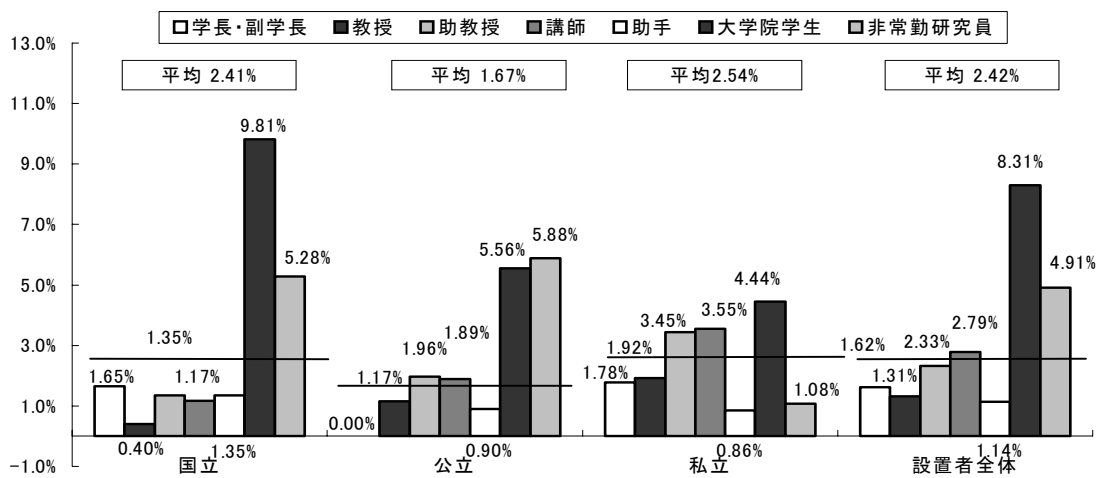


図 11 職名別・外国氏名保有者の比率

### 3. 学歴

#### 3.1 最終出身学校

研究者の最終出身学校の状況を見ると、大学院修了者が106,092人(63.9%)で、このうち、博士課程修了者は62,373人(37.6%)、修士課程修了者41,210人(24.8%)である。また、大学学部の卒業者が28,492人(17.2%)、短期大学その他の卒業者は31,343人(18.9%)となっている(表5)。

専門分野別に研究者の最終出身学校の状況を見ると、大学院修了者の割合は、理学が最も高く90.6%であり、次が経済学の88.5%となっている。これらに次いで高い分野が法学と文学であり、それぞれ、87.0%と86.0%となっている。以下、工学(82.5%)、農学(81.9%)、複合領域(74.8%)、広領域(63.2%)の順であり、医学が51.7%と最も低くなっている(図12)。

機関種別に研究者の最終出身学校の状況を見ると、大学院修了者の割合は、文部科学省施設等機関等で高く76.5%であり、以下、高等専門学校(76.0%)、大学(64.2%)、大学共同利用機関等(58.1%)、短期大学(54.8%)、民間学術研究機関(53.2%)の順になっている(図13)。

出身学校の所在地について国内・国外別に状況を見ると、全研究者の3.8%に当たる6,257人が国外の学校の卒業生である(表5)。これは、専門分野では、文学(10.5%)、広領域(8.1%)、経済学(7.1%)、法学(6.8%)の分野において、機関種別では、短期大学(4.0%)、大学(3.8%)において、国外の学校の卒業生が比較的多く、全体の平均を上回っている。

表5 専門分野別・最終出身学校及びその所在地

専門分野	合計 (人数)	大学院				大学学 部(人数)	短大その 他(不明 を含む) (人数)	出身学校の所在地			
		博士課 程(人数)	修士課 程(人数)	課程不 明(人数)	計			国内		国外	
								人数	比率	人数	比率
文学	20,162	9,676	7,409	264	17,349	2,296	517	17,425	86.4%	2,112	10.5%
法学	2,857	1,761	688	38	2,487	312	58	2,571	90.0%	195	6.8%
経済学	5,285	3,507	1,115	53	4,675	532	78	4,752	89.9%	373	7.1%
理学	8,530	5,246	2,411	72	7,729	613	188	8,023	94.1%	212	2.5%
工学	13,074	5,681	4,997	106	10,784	1,927	363	12,356	94.5%	421	3.2%
農学	4,178	1,829	1,538	55	3,422	683	73	3,982	95.3%	95	2.3%
医学	19,268	7,064	2,629	266	9,959	8,645	664	18,281	94.9%	311	1.6%
複合領域	12,903	5,203	4,297	157	9,657	2,836	410	12,176	94.4%	404	3.1%
広領域	2,243	570	706	141	1,417	630	196	1,923	85.7%	181	8.1%
無回答	77,427	21,836	15,420	1,357	38,613	10,018	28,796	46,971	60.7%	1,953	2.5%
計	165,927	62,373	41,210	2,509	106,092	28,492	31,343	128,460	77.4%	6,257	3.8%

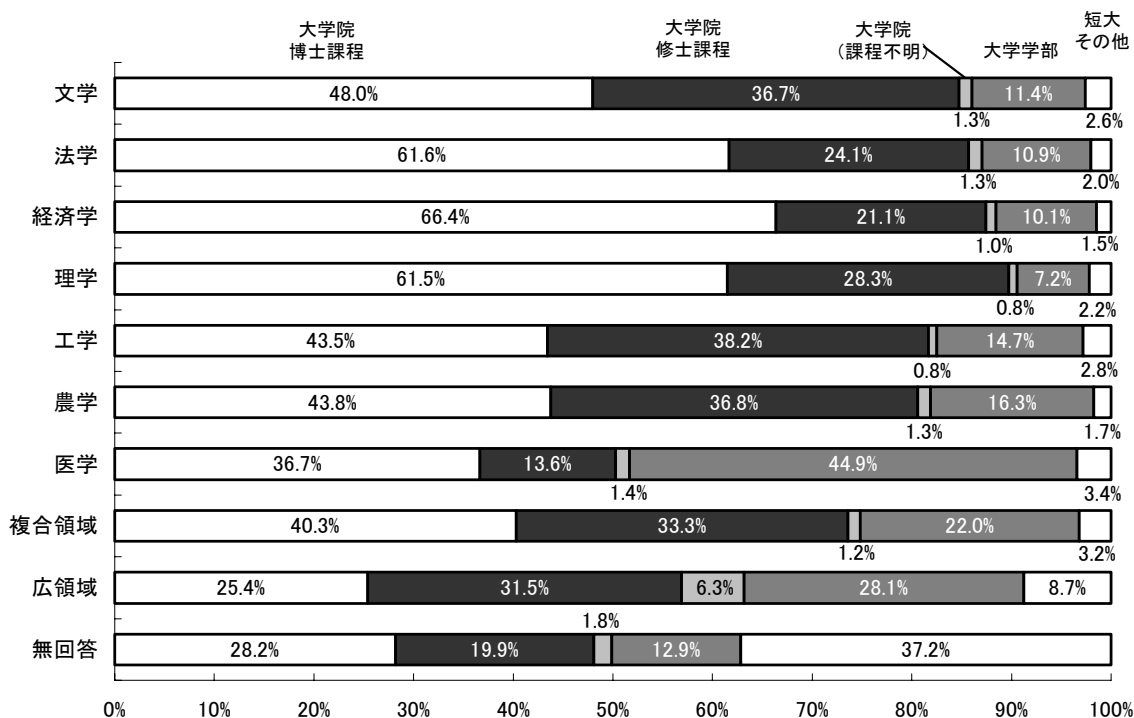


図 12 専門分野別・最終出身学校の状況

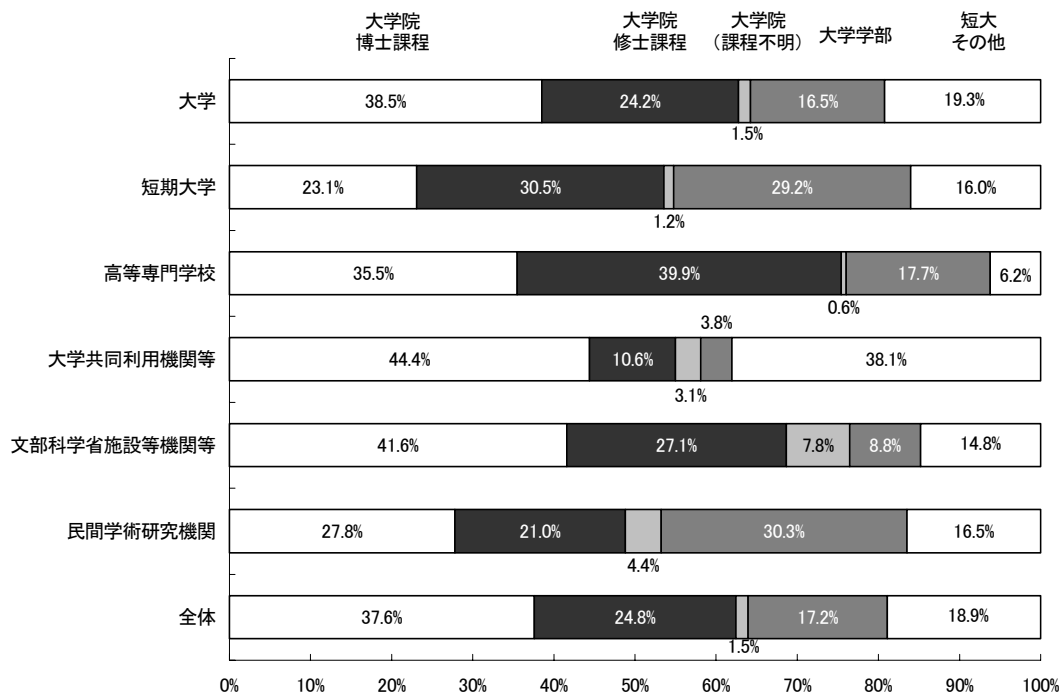


図 13 機関種別・最終出身学校の状況



### 3.2 博士学位取得の状況

研究者の博士学位取得状況を見ると、75,743人が取得しており、これは、全研究者の45.6%に当たる。取得学位の種類としては、工学博士が最も多く、全体の27.1%、次いで、医学博士(22.6%)、理学博士(16.8%)、農学博士(6.8%)であり、以下は図14のとおりである。

専門分野別の博士学位取得者の割合を見ると、理学(81.9%)、農学(77.8%)、工学(76.6%)、医学(71.5%)、複合領域(53.2%)において高くなっている。また、文学、法学、経済学の方野においては、博士学位取得の割合は極めて低く、それぞれ21.7%、26.7%、34.9%である(図15)。

機関種別に博士学位取得者の割合を見ると、大学共同利用機関等の研究者の取得率が最も高く56.8%、次いで、高等専門学校(55.0%)、民間学術研究機関(45.9%)、大学(45.9%)、文部科学省施設等機関等(43.2%)の順であり、短期大学(16.9%)においては、比較的取得率は低い。なお、国立の研究者の学位取得率は、50.9%と半数を占めている(図16)。

次に、大学研究者について、職名別に博士学位取得状況を見ると、学長・副学長の64.9%、講師の60.1%、助教授の60.1%、教授の59.8%、助手の56.5%が博士学位取得者となっている。また、非常勤研究員は、70.4%と最も高い(図17、表6)。

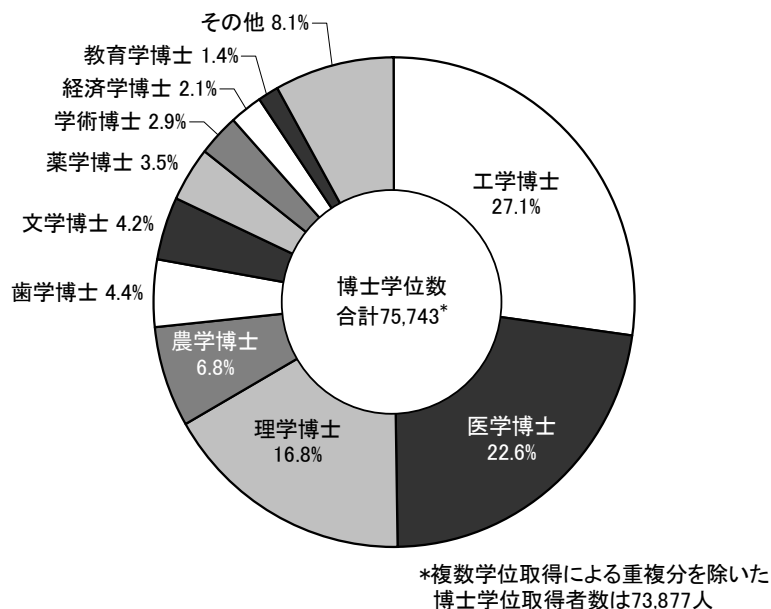


図14 博士学位取得の状況

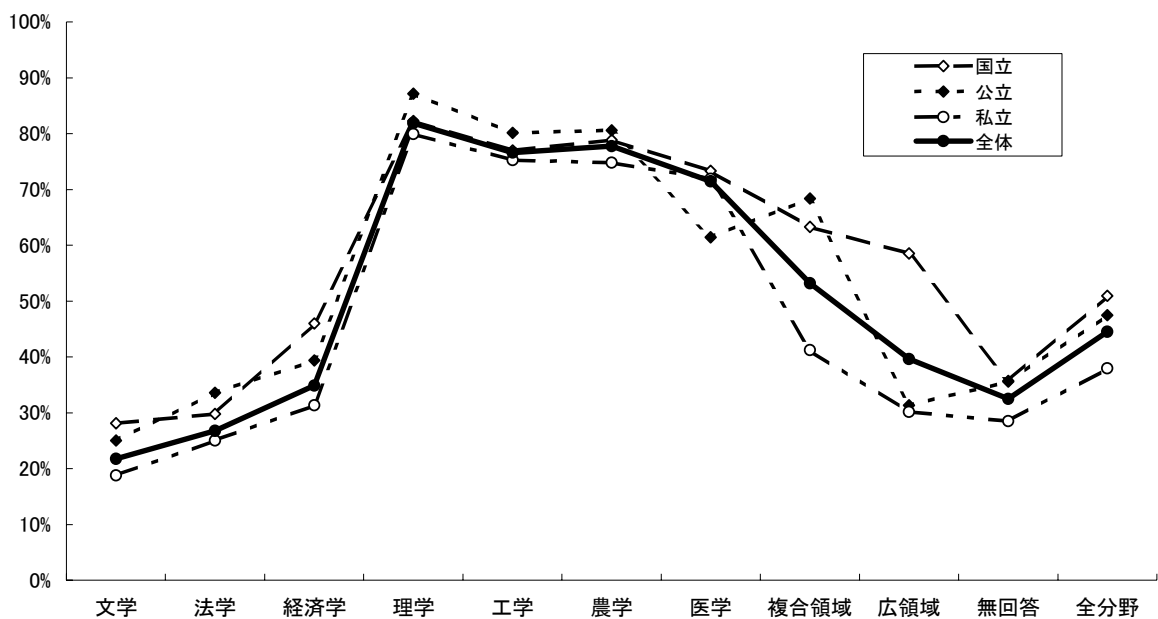


図 15 専門分野別・設置者別・博士学位取得率

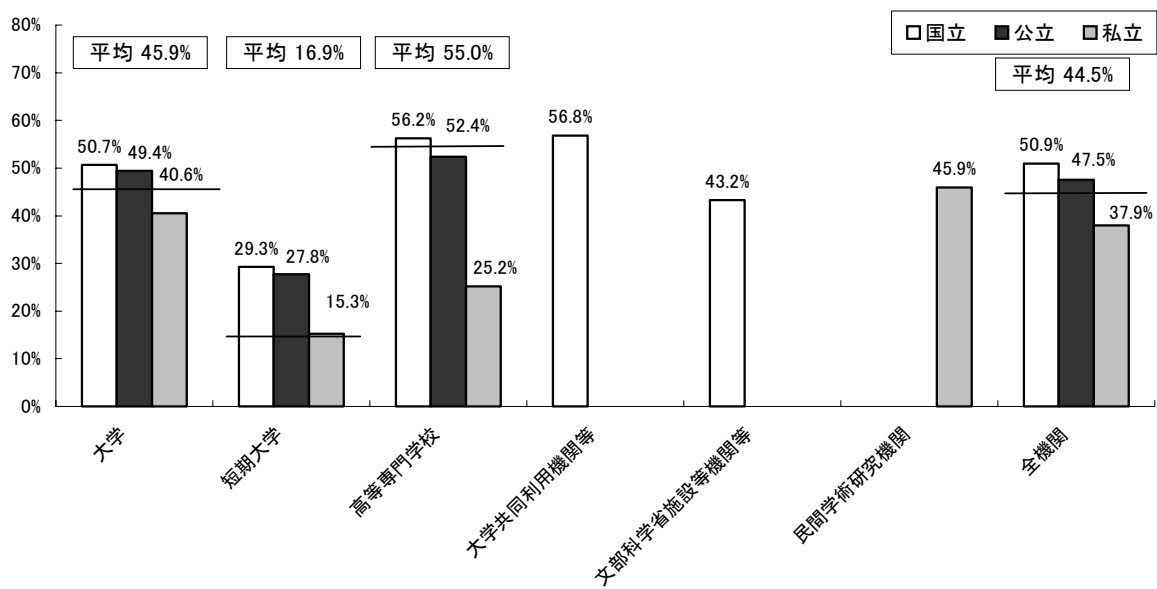


図 16 機関種別・設置者別・博士学位取得率

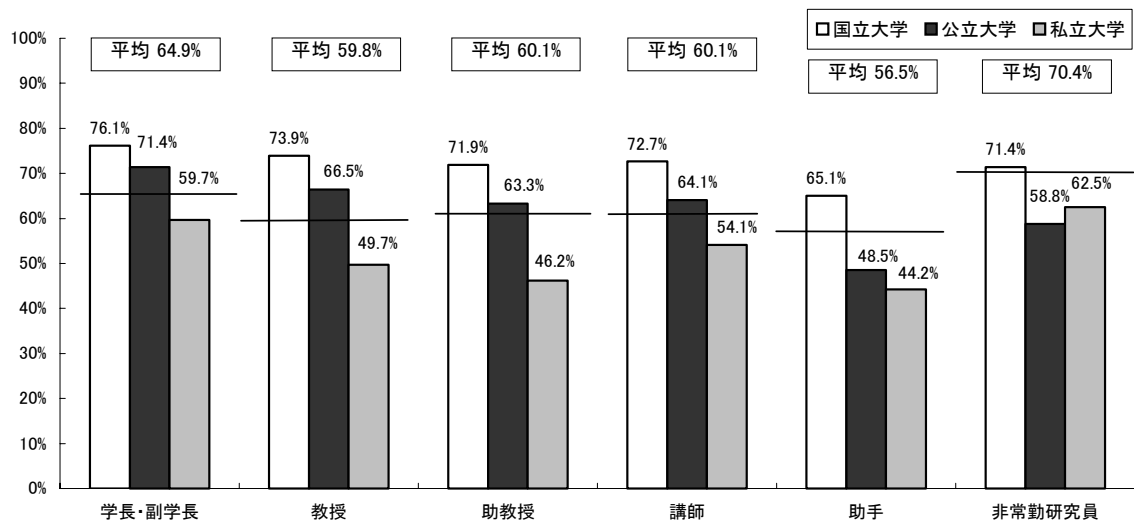


図 17 大学における研究者の職名別・博士学位取得率

表 6 大学における研究者の職名別・博士学位取得率

	職名	研究者	博士	博士取得率
国立大学	学長・副学長	109	83	76.1%
	教授	17,618	13,018	73.9%
	助教授	14,444	10,385	71.9%
	講師	3,791	2,755	72.7%
	助手	11,501	7,484	65.1%
	非常勤研究員	863	616	71.4%
公立大学	学長・副学長	28	20	71.4%
	教授	2,650	1,761	66.5%
	助教授	2,017	1,277	63.3%
	講師	1,170	750	64.1%
	助手	1,767	857	48.5%
	非常勤研究員	17	10	58.8%
私立大学	学長・副学長	273	163	59.7%
	教授	26,396	13,119	49.7%
	助教授	12,772	5,904	46.2%
	講師	8,683	4,694	54.1%
	助手	6,853	3,029	44.2%
	非常勤研究員	80	50	62.5%
大学全体	学長・副学長	410	266	64.9%
	教授	46,664	27,898	59.8%
	助教授	29,233	17,566	60.1%
	講師	13,644	8,199	60.1%
	助手	20,121	11,370	56.5%
	非常勤研究員	960	676	70.4%